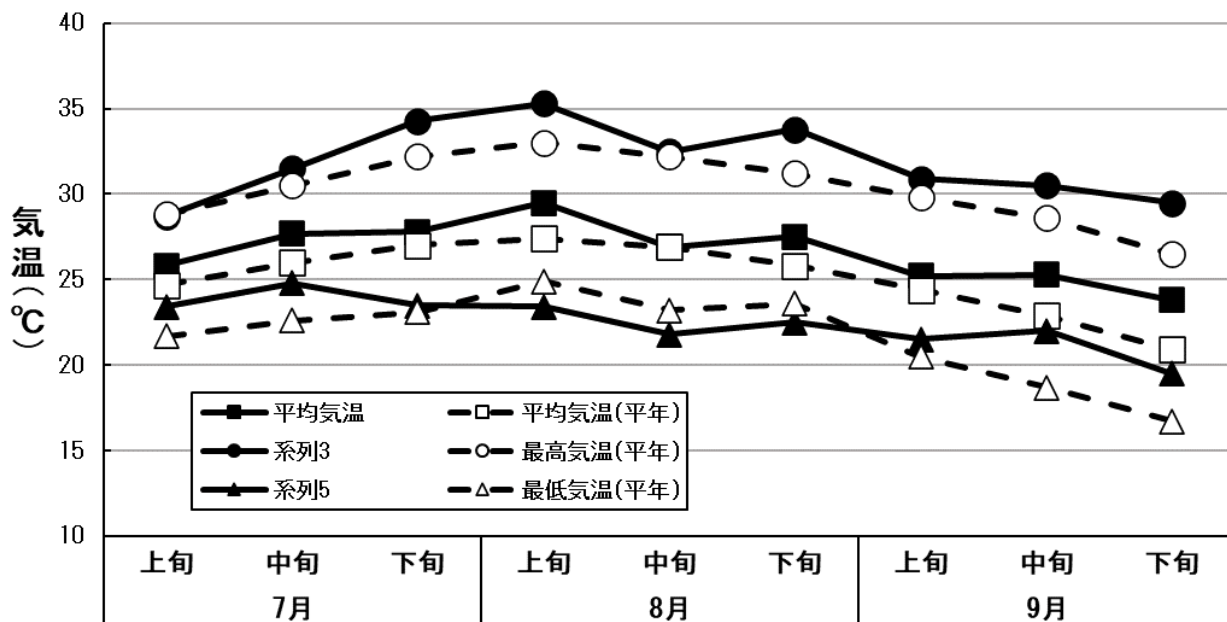


# 令和5年 お茶づくり技術情報 (No.10)

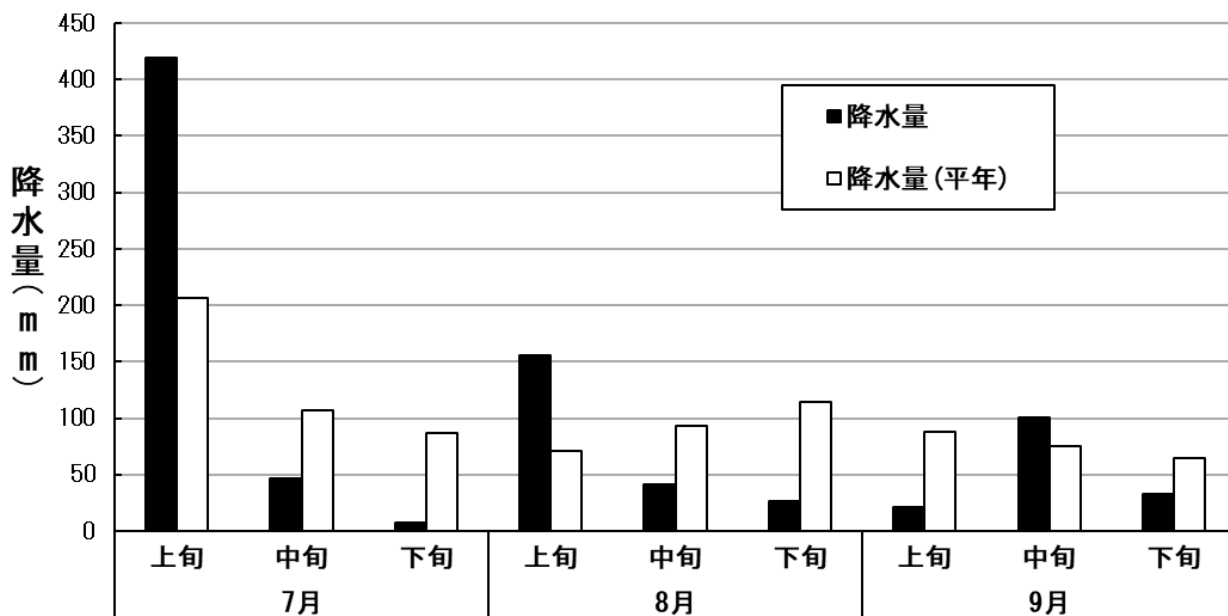
2023年9月29日  
佐賀県茶業技術協会  
佐賀県茶業試験場

## 1. 気象概況

### 1) これまでの気象(2023年8月~9月)



(1) 平均気温は、8月中旬を除いて平年より0.8~3.0°C高く推移した。



(2) 降水量は、7月上旬、8月上旬は平年の2倍以上と多かったが、その後9月上旬までは極端に少なく、7月上旬から9月下旬までの期間降水量852.0mm(平年比94%)の半分を7月上旬の降水量が占めていた。

## 2) 今後の気象

### ■ 1か月予報 (気象庁、2023年9月21日発表)

	平均気温 (1か月)	降水量 (1か月)	日照時間 (1か月)
九州北部地方 (山口県含む)	低10 並30 高60% 高い見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み	少30 並40 多30% ほぼ平年並の見込み

(1) 暖かい空気に覆われやすいため、平均気温は高くなるが、2週目は平年並となる見込み。

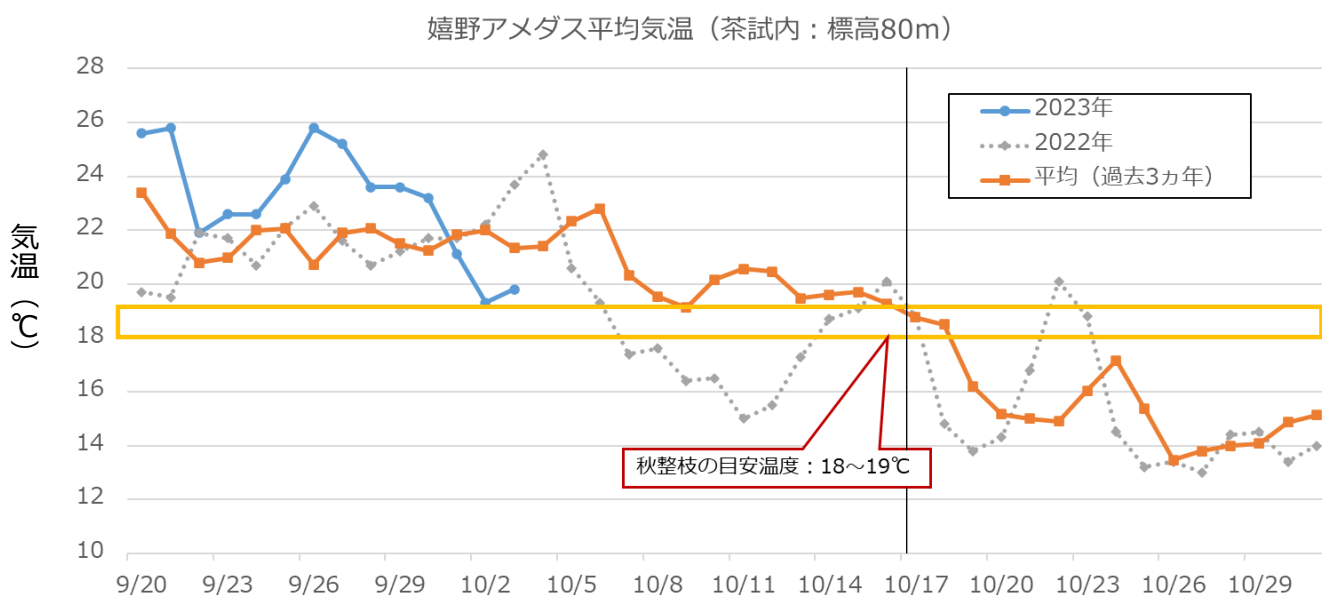
(2) 向こう1カ月の降水量と日照時間は、ほぼ平年並となる見込み。

## 2. 今後の管理

### 1) 秋整枝

#### (1) 整枝の時期

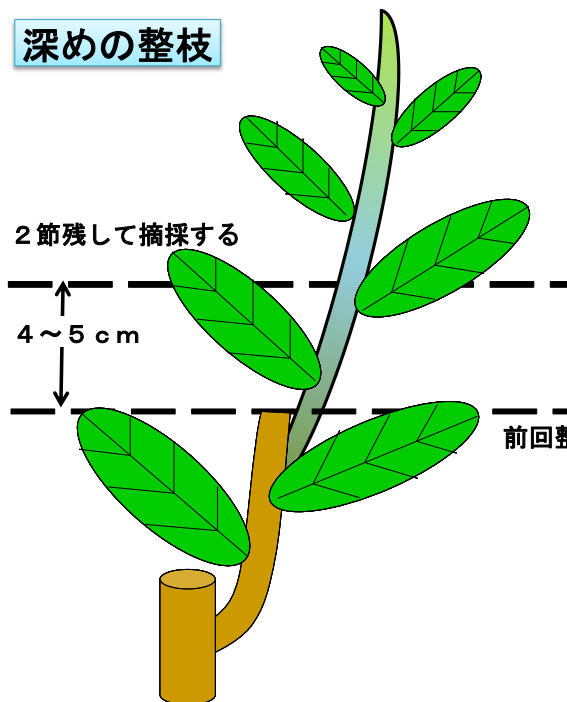
- ・ 秋芽の生育が停止する時期に行う。  
(平均気温：18～19℃以下が目安、例年10月中旬ごろ)
- ・ 整枝の時期は、越冬芽の大きさが小さい場合に早く、大きい場合は遅らせる。  
(芽が大きいと再萌芽のリスクが高まる)
- ・ 早生品種 (さえみどり等)、早場地帯、幼木園や更新園は、比較的低温の時期まで芽が生育するため、整枝を遅らせる。
- ・ 秋芽が繁茂した茶園では、一度に深い位置で整枝すると日焼けを起こす場合があるため、本整枝の7～10日前に仮整枝を行う。



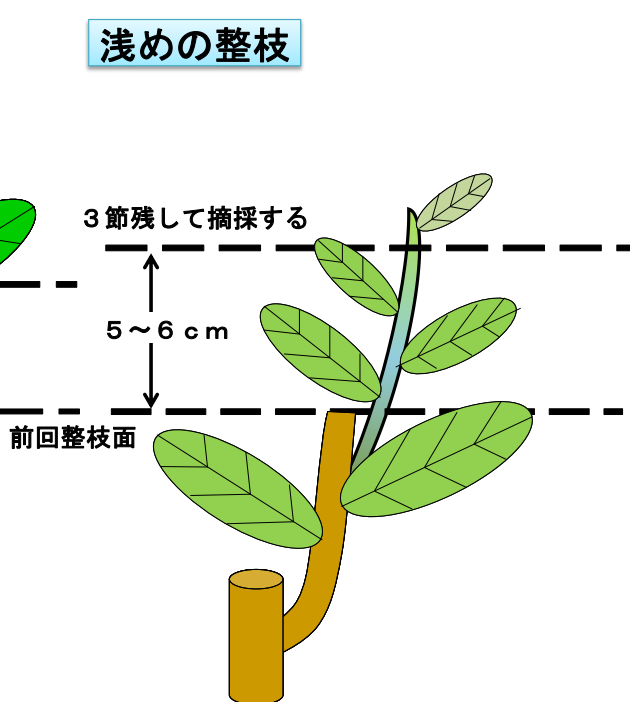
## (2) 整枝の位置

- ・生育が良好な茶園では前回整枝面の2～3節上で（下図①）、生育が不良な茶園では軽くならず程度に整枝を行う（下図②）。
- ・一番働く葉（光合成能力の高い葉）が表面に出るように調節する。  
※葉が厚く、色の濃い葉は光合成能力が高い。
- ・整枝位置は、茶園の端で高さを決めると低くなりがちのため、少し畦内に入った位置で決定する。

### 深めの整枝

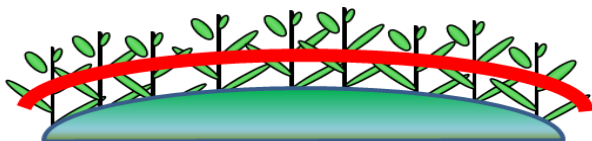


### 浅めの整枝



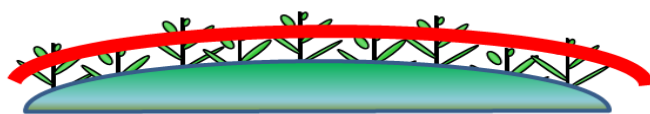
#### ① 生育良好園、幼木園

- ・葉層が厚く、芽数がある程度増やしても芽の生育が良い。



#### ② 生育不良茶園、三番茶摘採茶園

- ・葉層の確保を優先する。
- ・無理に深い整枝を行うと、芽伸びが不良  
→収量・品質が低下



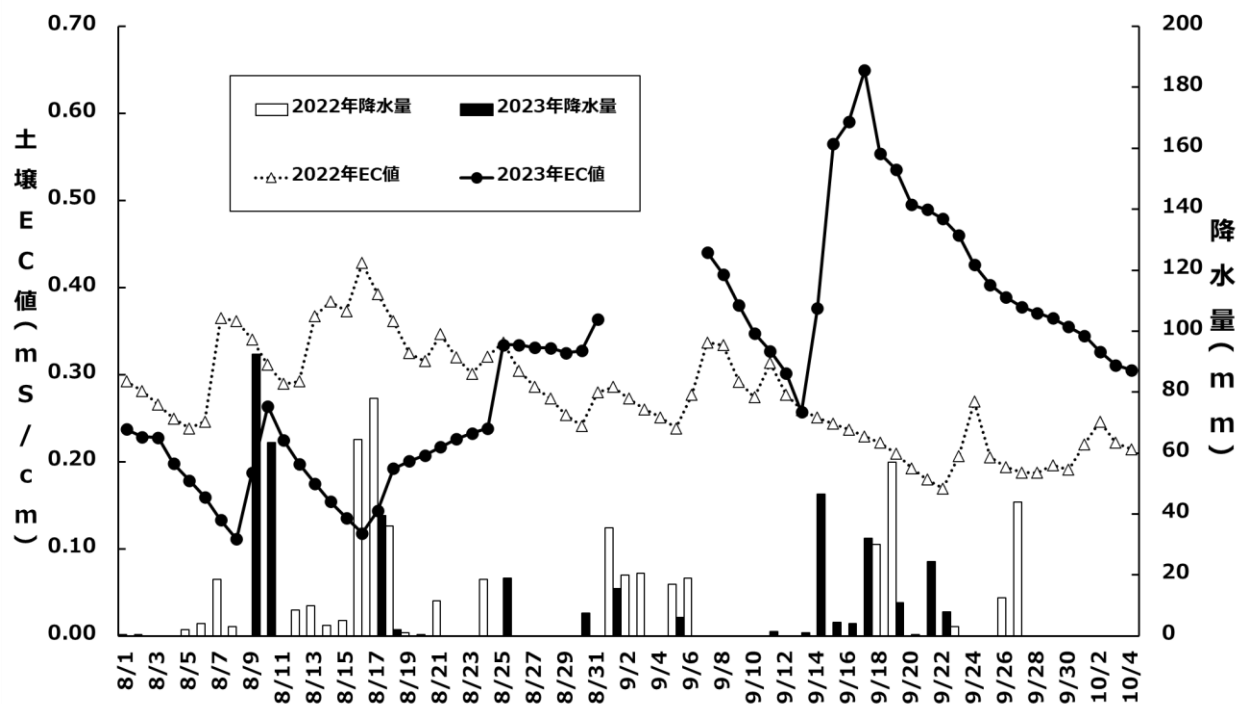
#### (秋整枝位置)

前回整枝面より2～3節程度上げた位置  
(4～5cm程度上げた位置)

#### (秋整枝位置)

樹冠面を軽くならず程度とし、頂芽を多く残す

## 2) 土壌 EC 値の動き



注1) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき推定した値を示す  
 注2) 9/1~9/6 の EC 値データは測定器エラーのため欠損。

図 茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

- ・土壌 EC 値は、8月上旬の降雨後に低下したが、その後断続的な降雨により徐々に上昇した。その後9月上旬に低下し、9月中旬の降雨で再度上昇した後、徐々に低下している。